

## 有機農業技術のつぼ

作物名	たまねぎ
対応技術の項目	その他
	育苗管理
	育苗代替技術によるたまねぎの育苗

### 《情報収集先の経営概要等》

北見市 蝦夷農園（代表：北原潤哉） 経験年数54年（うち有機54年）

経営耕地面積 12.0 ha（全面有機）

たまねぎ	12.0 ha
------	---------

労働力 構成員5人

有機JAS認定の取得状況 H11年取得

### 問題点

#### 育苗代替技術の導入により、欠株が多くなった

- 有機たまねぎは、現状では、培土に化学合成糊剤を添加する経過措置（19ページ参照）を採用して育苗している農家が多いが、将来的には、化学合成物質を使用しない育苗方式への転換が求められている。
- 育苗代替技術（20ページ参照）を試験導入（H25年）したところ、慣行培土に比べて欠株率が高くなった。



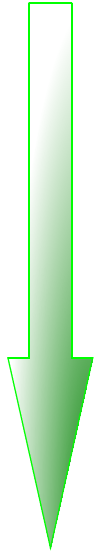
固化が不十分なため培土が崩壊した苗

### 対応

#### 「低速」設定で移植作業を行った

つぼ

- 移植速度を「低速」（0.32 m/s）に設定して移植作業を行った。



「低速」で確認しながら移植作業を行った

## 成 果

慣行栽培と同程度の欠株率となった

□ 欠株率 : H26年 : 20% H27年 : 10%

### ※ 対応技術活用上の注意点

- ・ 必ず指定された速度 (0.4m/s) 以下で移植作業を行うこと。
- ・ 固化を安定させるため、アルギン酸ナトリウム溶液を育苗トレイに均一に散布することが必要、また、移植時には、培土の固化状況を確認することが必要である。
- ・ 「低速」であっても、固化剤の散布の不均一や乾燥が不十分な場合、移植精度が低下し、欠株が増加する可能性が高い。この場合、低速化に加え、補植作業増に伴い作業効率がさらに低下する恐れがある。